

講義名	対)消費文化論			
担当教員	森脇 丈子			
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 5時限	授業形態	演習	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

資本主義の発展は、私たちに「豊か」で「便利」な生活をもたらしました。ものを所有するだけの「豊かさ」を超えて、余暇の有意義な使い方や精神的なゆとりを持ち、現代の「豊かさ」とは何かといった面が高い関心が寄せられています。

その一方で、便利は必ずしもデメリットが多すぎることによって使わなくなったり、生活が便利になりすぎることによって健康を感じる人がいたり、環境破壊に関する国際的議論が活発になりつつあります。この授業では、現代の消費様式や生活の仕方や文化がどのように形成されてきたかについて学びます。さらに、私たちの生活のあり方の特徴ならびに問題点や課題がどこにあるかを理解しながら、生活の「豊かさ」や「便利さ」とは何かということであるかについて考えていきます。

到達目標

【対面授業】この科目は、「対面型」で実施します。到達目標の達成のためには、授業形態や扱う教材等の関係上、対面型での授業が望ましいためです。「オンデマンド型」ではありませんので、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加してください。なお、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染リスクまたは濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には、Ryuka Portalを通じてオンライン授業のURLと課題を知らせます。入校等によりオンライン授業にも参加できない場合には、教務課を通じて個別に対応を相談します。

- 消費社会の基礎である大量生産・大量消費・大量廃棄の仕組みが理解できるようになる。
- 社会の発展のなかで、消費文化がどのようにみ出されるかについて理解できるようになる。
- 「便利な生活」がもたらす正と負の側面について考え、理解できるようになる。
- 「賢い消費者」とは何かについて考え、理解できるようになる。

提出課題

毎回の授業のなかで、その日の授業に関連した課題を出します。レスポンドで課題を提出してください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

次の授業開始時に、前回授業の提出済みの「課題」に関してコメントをします。

評価の基準

- 課題 ... 点数 = 42点 (3点/回 × 14回)
- 最終試験 ... 点数 = 58点

「課題」(42点)と「最終試験(58点)」の合計点で、評価をします。合計60点以上が、合格です。59点以下は、不合格です。

履修にあたっての注意・助言他

対面授業では学生に質問を出します。発言(レスポンド利用)に参加できるようにしてください。

新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や企業活動などに関する情報を日々収集しておいてください。

第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業中の約束事をしっかりと理解したうえで、受講してください。

教室での対面授業では、スマホは教員の指示があった場合だけに使用してください。受講態度の悪い人には退席を求めることがあります。

関連科目として、「消費者問題論」、「アミューズメント事業論」、「生活構造論」、「NPO論」、「経済学入門」の受講を勧めます。

教科書					
・「使用しない」。					

プリント資料及び参考文献

教室で行う対面授業では、出席者に、プリント、新聞記事を適宜配布します。オンライン授業では、Ryuka Portalの「講義連絡」の機能を使って、プリントを提供します。

- ・新潮社、竹村民郎『大正文化 帝国のユートピア』2004年、三元社
- ・山田登世『買訳の条件』2009年、岩波新書。
- ・伏見守『人間は誰で食べている』、2005年、ちくま新書。
- ・藤原辰史(2018)『読者の歴史』、岩波新書
- ・長田華子(2016)『990円のジーンズがつくれるのはなぜ?』、合同出版

授業計画

1. 授業の内容紹介と授業の進め方について、経済の発展と「消費社会」の変化について考える
2. 資本主義の発展とその基礎
3. 資本主義の発展と生活の「豊かさ」
4. 小売業の発達と生活様式の成立:19世紀のアメリカ社会を例に
5. 小売業の発達と生活様式の変化:20世紀のアメリカ社会を例に
6. 経済と公共事業
7. 大量生産と生活の変化
8. 世界初の百貨店ボン・マルシェの登場(1):売り方の改革、消費者層の広がりに
9. 世界初の百貨店ボン・マルシェの登場(2):社員教育
10. 日本の百貨店の登場と消費階層の広がりに
11. 大正時代の経済発展と消費文化(1)-神戸の経済
12. 大正時代の経済発展と消費文化(2)-洋式の生活
13. 日本における戦後の生活の変遷(1):農村系から都市型社会へ、生活の「豊かさ」、余暇社会
14. 日本における戦後の生活の変遷(2):消費の多様化、大量廃棄システムと環境問題
15. 最終試験

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・毎回の講義終了時に、次の範囲とそれに関連する予習項目を提示します。新聞やニュースなどを使って情報収集に努め、次週の授業での質問により多く答えられるよう準備してください(作業時間:2時間程度)

・その日の授業で扱った内容を基にして、次週の授業開始時に復習問題を提示します。授業で使用したプリントを用いて、基礎的な内容の復習をしてください。また、配布した新聞記事などを利用して、具体的事例で授業内容をより深く理解できるように努めてください(作業時間:2時間程度)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会共創・産学連携、インターンシップなどで現実社会との視点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身に付け、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。

人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業では、説明のあと質問を出します。レスポンドで意見を述べてください。

実務経験の有無及び活用

備考

第1回目の授業ガイダンスをしっかりと聞いて、授業の進め方・評価方法を理解してください。

教員の指示があったときのみ、スマホを使用してください。教室への勝手な出入りは禁止します。授業態度の悪い人には退席を求めることがあります。